記者発表資料

平成２８年　６月２７日
東北地方整備局
北上川ダム統合管理事務所

【北上川ダム統管】７月１日より洪水期を迎えます
～北上川上流5ダムからのダム情報にご注意下さい～

北上川は毎年7/1～9/30までを洪水期と定めています。

洪水期を迎えるにあたって、北上川上流ダム群の洪水対応についてお知らせいたします。

北上川ダム統合管理事務所では、大雨の際の被害軽減を目的に、ダムの適切な操作及び関係機関との連携による情報提供など、万全の体制で対応につとめてまいります。













≪発表記者会：岩手県政記者クラブ≫

＜問い合わせ先＞
国土交通省　東北地方整備局　北上川ダム統合管理事務所
〒020-0123　盛岡市下厨川字四十四田１番地
（代表TEL：019-643-7831）
副所長　　山田（ヤマダ）　光雄（ミツオ）　（内線 204）
管理第一課長　　三浦（ミウラ）　高史（タカシ）　（内線 331）

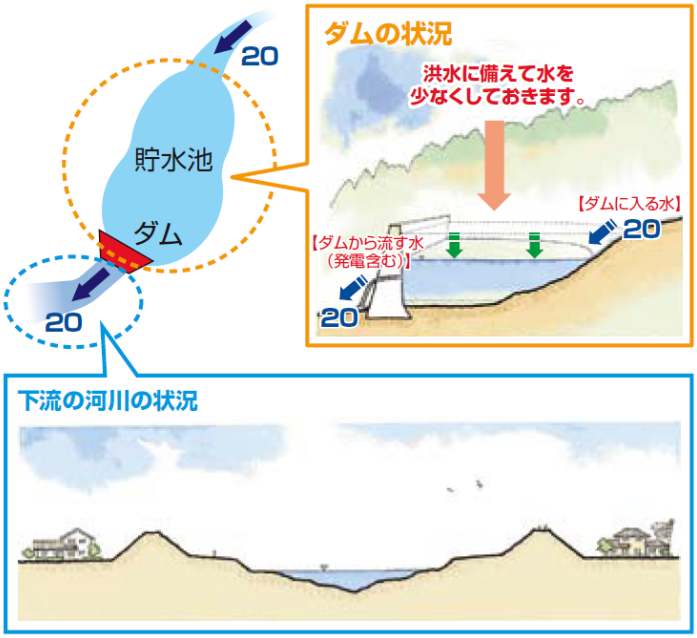
ダムによる洪水調節の仕組み

参考資料①

ダムは洪水の一部をダムに貯め込み、**ダム下流に流れる水量を減少させ、被害を防止しています。**
ただし、ダム計画を上回る洪水時は、ダムに入る水量をそのまま流す操作に移行する場合があります。
ダムに貯められる量には限界があり、万能ではありませんので、ダムからの情報に注意して下さい。

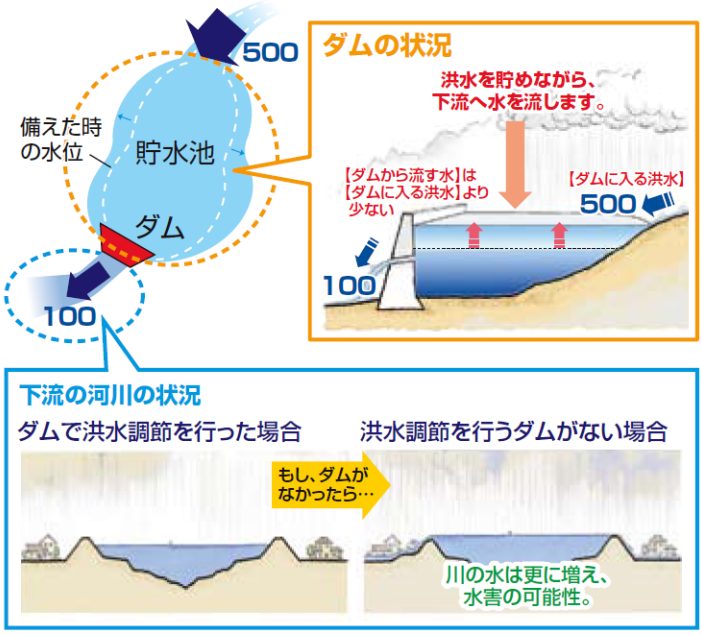
①洪水に備える

台風や大雨による洪水の起きやすい季節（7月～9月）には、洪水に備え前もってダムの水を少なくしておき、洪水のときに水を貯める準備をします。



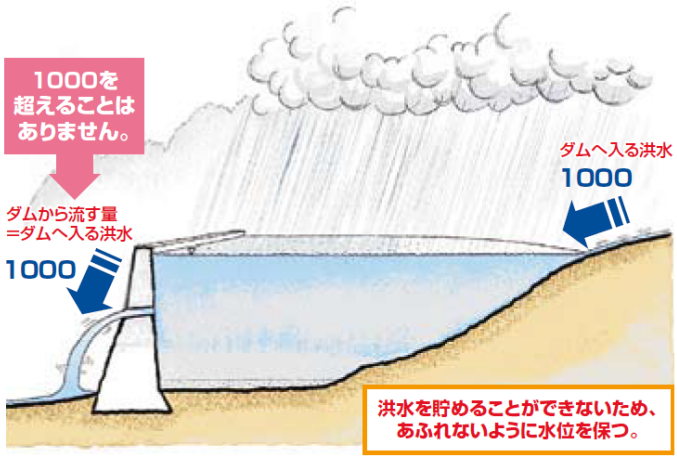
②洪水を貯め込む

大雨が降り洪水（500以上）になると、ダムに流れ込む洪水の一部をダムに貯め、下流に流しても安全な量だけダムから流します。
ダムから流す水の量は、①の洪水に備えているときより増えます。このようなときには、前もってダムからスピーカー等で状況をお知らせします。



③計画規模を超える洪水への対応

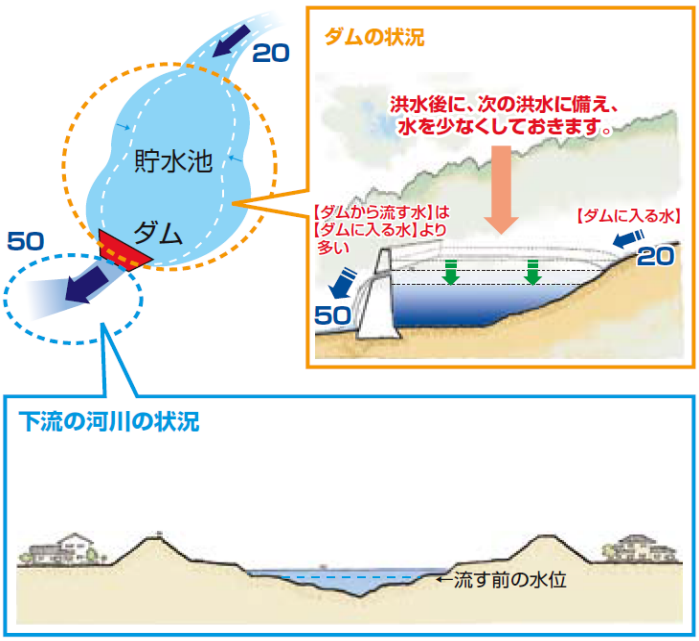
異常な豪雨により、ダムを造るときに想定したよりも、大きい量の洪水がダムに流れ込むことがあります。ダムでも精一杯②のように洪水を貯めながら下流に流す操作を行いますが、ダムに貯めることができる水の量には限界があります。
このような場合には、ダムから下流に流す水の量を徐々に増やしながら、ダムに入ってくる水の量と同じ量を下流に流すようにします。（自然河川状態）



自然河川状態（ダムに入る洪水=ダムから流す量）でのダムの操作を維持。

④次の洪水に備える

大雨がやみ洪水が過ぎ去ると、ダムに流れ込む水の量も少なくなります。
ダムの水は、洪水を貯めた分だけ増えているので、次の洪水に備えるために下流の川の状況を見ながら、貯めた水を流してダムの水を少なくします。



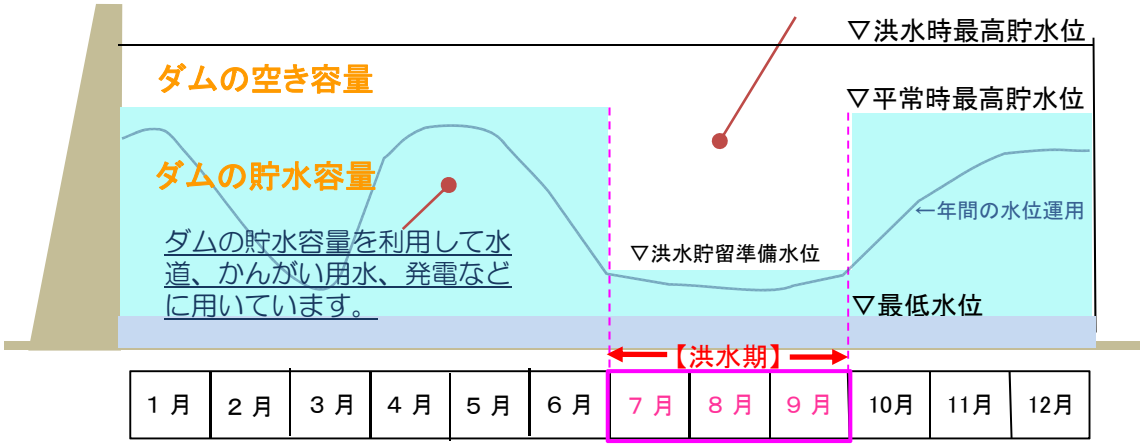
ダム水位運用とダム操作の通知

参考資料②

ダムは洪水の起きやすい季節になると、**洪水を溜め込む準備として事前にダムの水位を下げます。**
実際に洪水が発生又は発生の恐れがある場合は、河川利用者や関係機関に対して、**FAXでの通知や放流警報設備、警報車を使用した注意喚起を行います。**

～ダム貯水池の水位運用イメージ～

7月～9月までの雨が多い時期（洪水期）は、
あらかじめダムの水位を下げ、洪水に備えます。



～ダム放流通知・巡視・警報等の実施～

〇放流通知・巡視・警報等の目的

ダム操作を開始する前に、下流河川の安全を確認するとともに、河川利用者や関係機関へ注意喚起を行います。


電光表示板


放流警報所

〇放流通知・巡視・警報等のタイミング

①放流を開始する前、又は、放流を増量する前
⇒関係機関には「放流開始・増量」を通知　← 1時間前
⇒巡視や警報を実施し、下流河川の安全を確認

②急激な水位変動を伴う放流操作の前
（ダムへの流入量に合わせて放流量を増加させる必要がある場合）
⇒関係機関には「急激な河川水位の上昇」を通知　← 1時間前
⇒再び巡視や警報を実施し下流河川の安全確認

③緊急のダム操作前
⇒関係機関には「計画規模を超える洪水時操作情報」を通知　← 3時間前
⇒巡視や警報を実施し上記の「操作開始の事前通知」　← 1時間前
⇒緊急のダム操作を開始した後に「操作開始の通知」　← 操作開始時

北上川ダム統管のリアルタイム情報

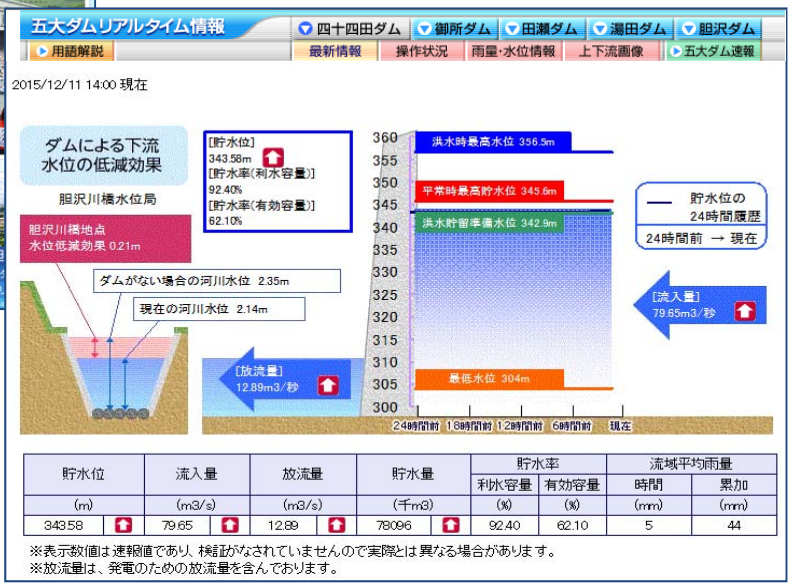
参考資料③

北上川ダム統合管理事務所で管理している5ダムの状況は、誰でもどこでも一目でわかるように、**パソコンや携帯電話、スマートフォン向けにリアルタイムで情報を発信**しています。
洪水時に河川（水辺）に近づくのは大変危険ですので、これらの情報をご利用下さい。



パソコン版　リアルタイム情報

http://www.thr.mlit.go.jp/kitakato/

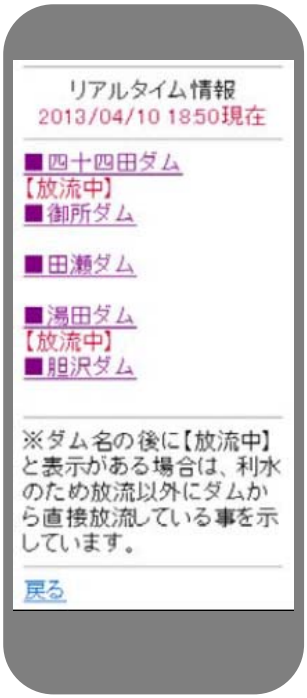


貯水位	流入量	放流量	貯水量	貯水率		流域平均雨量	
				利水容量	有効容量	時間	累加
(m)	(m3/s)	(m3/s)	(千m3)	(%)	(%)	(mm)	(mm)
343.58	79.65	12.89	78096	92.40	62.10	5	44

※表示数値は速報値であり、検証がなされていませんので実際とは異なる場合があります。
※放流量は、発電のための放流量を含んでおります。

四十四田・御所・田瀬・湯田・胆沢ダムの「貯水位」、「流入量」、「放流量」、「ダムによる下流水位の低減効果」等の情報が確認できます。

携帯電話・スマートフォン版　リアルタイム情報





●携帯電話

http：// keitai.thr.mlit.go. jp/kitakato/mobile/index.html

●スマートフォン

http：// keitai.thr.mlit.go. jp/kitakato/sp/

携帯電話

スマートフォン

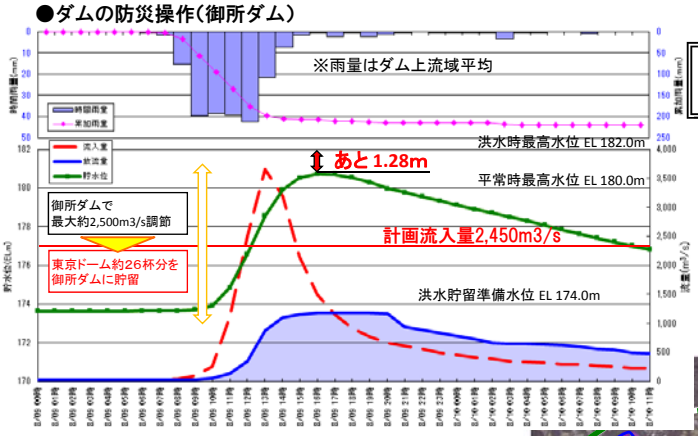


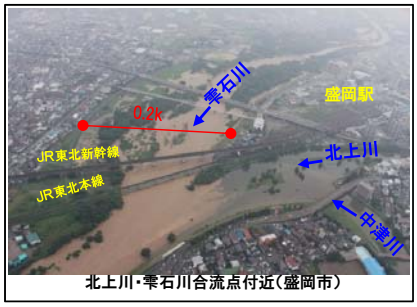
平成25年8月9日（低気圧）　御所ダムで既往第１位の洪水を記録

参考資料④

○平成25年8月洪水で**既往第1位**の**最大流入量3，733m3／秒**を記録。（過去最大のH19.9洪水2，198m3／秒をはるかに上回る）**※約1．7倍**
○ダム計画の基準となる**計画流入量（2，450m3/秒）も上回りました。 ※約1．5倍**
○御所ダムの最高水位は180．72mまで上昇し、**洪水時最高水位182．00mまで、あと1．28m**にせまりました。
○御所ダムでは**最大2，548 m3／秒**を、四十四田ダムでは**317 m3／秒の洪水を貯留し、下流河川の水位低減**を図りました。
○盛岡市の雫石川合流点付近では、ダムが無ければ**約4．0m水位が上昇**し、**盛岡市街地ではん濫する危険性**があったと推測されます。

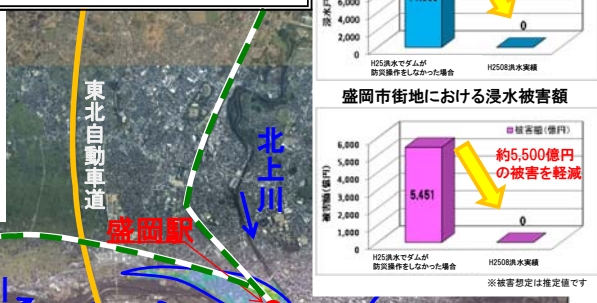
●ダムの防災操作（御所ダム）





北上川・雫石川合流点付近（盛岡市）

御所ダムが防災操作をしなかった場合にはん濫が想定されるエリア



※平成25年8月9日洪水において、御所ダムが防災操作をしなかった場合に想定される浸水状況をシミュレーションにより求めたもの。
※北上川及び雫石川は現況河道で評価し、計画高水位を超過する地点で堤防が決壊した場合を想定したもの。

平成25年9月16日（台風18号）　四十四田ダムで既往第１位の洪水を記録

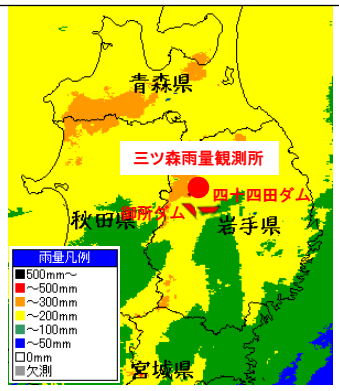
○平成25年9月洪水で**既往第1位**の**最大流入量1，468m3／秒**を記録。（過去最大のH19.9.17洪水　966m3／秒をはるかに上回る）**※約1．5倍**
○さらに、ダム計画の基準となった**計画流入量（1，350m3/秒）をも上回りました。 ※約1．1倍**
○**三ツ森雨量観測所**では、**観測史上第1位**の**67mm／時間**を記録し、四十四田ダムでは**約8m水位が上昇。**（上昇分の洪水を溜めました。）
○四十四田ダムの**流域平均累加雨量は129mm**で、降り始めから12時間の雨量としては、**観測史上第1位**を記録しました。
○盛岡市街地のはん濫を未然に防ぐため、**御所ダムと連携した操作**を行い、下流河川において**はん濫危険水位程度に抑えました。**
○四十四田ダムには、**平成19年9月17日洪水の約2倍**となる**約78，000m2の流木が流入**しました。

※数値は速報値

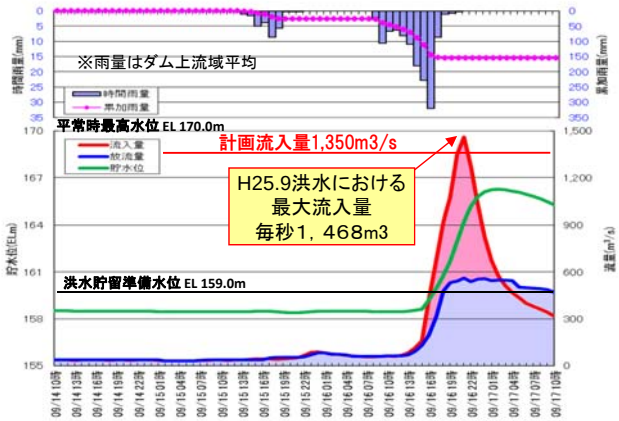
等雨量線図（15日0時～16日23時）



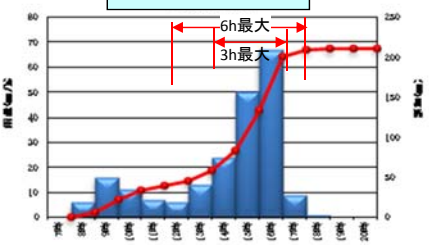
累加レーダ雨量（15日0時～16日23時）



●ダムの防災操作（四十四田ダム）



三ツ森雨量観測所



三ツ森雨量観測所
1時間最大雨量＝ 67mm
3時間最大雨量=141mm
6時間最大雨量=169mm
（以上、観測第１位）



四十四田ダムの状況



館坂橋下流側の状況